

を開催しました

7月11日(土) 午後1時30分

会場：佐野高校

概要

佐野市議会の議員12名が、SGH活動でまちづくり研究を行っている佐野高校の生徒を訪問しました。まず、議会の仕組みを説明させていただいた後、生徒から、4つのテーマについて政策提言を受け、意見交換を行いました。内容の一部をご紹介します。

※班ごとに会場を分けるなど、感染予防に努めて実施しました。



(議会の仕組みを説明)

クリケット×多文化共生～佐野から始まるクリケット革命～

クリケット班

背景 佐野市はクリケット振興に熱心に取り組んでおり、多くの外国人が市を訪れているが、市民、特に中高生は関心が低く、国際交流の機会を逃している。

仮説 クリケットを使った国際交流の機会を提供すれば、市民のクリケットへの関心を高めるだけでなく、外国人の方の地域とのつながりも深まり、多文化共生につながるのではないかと。

研究 高校内で国際交流会やクリケット体験会を実施し、親睦の場や、直接クリケットに触れる機会を提供した。

考察 市民と外国人の橋渡し役を中高生が担うことができる。一部の関係者のみで推進するのではなく、教育委員会や地域機関と連携し、市民全体で持続可能な貢献を目指していく。

議員の所感 誰かにその解決を委ねるのではなく、自分たちがその中核的な役割を果たすとの主体性に、地域に対する熱く真剣な思いと、未来への責任感が強く感じられました。



レストランメニューの多言語化

多言語メニュー班

背景 外国人観光客が旅行中、困ったこととして「多言語表示の少なさ」「コミュニケーションがとれない」等が多いことから、どうすれば外国人観光客の感じる「言語の壁」をなくせるかを考えた。

仮説 レストランメニューを多言語対応させれば、佐野市が外国人観光客にとって心地良い場所になるのではないかと。

研究 外国人がどれほど困っているかをわかっていないため、英語メニューを扱うお店が少ない。実際に英語メニューを作成したところ、肯定的な評価であり、有用であることがわかった。

考察 お店側も新たな顧客を獲得することができ、双方にメリットがある。適切な支援策を講じて多文化対応メニューを導入すれば、言語の壁をなくすことができる。

議員の所感 飲食店関係の市民の皆様や関係者との交流を通じて、シビックプライド(市に対する市民の誇り)の観点から市の発展に興味を抱いており、今後の将来性が垣間見えました。

